



全道ろうあ者大会にて、手話でのユーモアあふれるあいさつに会場は沸きました

岩松発電所の下流部に建設を予定していた新岩松発電所の工事が7月から本格的に始まりましたが、現場を囲う道々沿いの塀に町内の小学生が描いた絵を貼ったとの報告がありました。とかく殺風景な雰囲気になりがちな現場が変わったと思つています。お父さん、お母さんをはじめ町民の皆さんにも子どもたちの作品を見ていただけたらと思います。

町長室から
こんにちは
新得町長 浜田正利



「どんな時も『笑顔で親切に』をモットーに、お客さまと接しています」と話す塚本さん

顔

No.381

新得に行くつて
決まった時から
ここの土になろうつて
決めてきたんです

「行つてらっしゃい、お気をさよなら〜」などと、JRを利用する出張の人や学生に笑顔で声をかけるのは、JR新得駅構内にあるキヨスクの店頭立つ塚本美雪さん。塚本さんは足寄町で林業会社を経営していた家庭に生まれ、3人姉妹の長女として育つた。

子どもの頃からどんなことにも好奇心があり、黙つていられたかったという。「一言で言うところの怖い物知らず。小学生の時、近くに飯場があつて大人たちが集まりお酒を飲みながら歌を歌つていて、その中に入つていって一緒に歌つたり。友達の家も知らないところはないというくらい毎日吹っ飛んで歩いていました。でも母親が厳しい人で、よく門限を破つて叱られました。家に入れてもらえなかつたり」と笑つて振り返る。高校を卒業後、地元のスパーでレジ打ちの仕事に就き、昭和49年に結婚



つかもと みゆきさん (61歳) 新生の1会

女の子1人に恵まれたが、娘さんが10歳の時に離婚。我が子を育てるため色々仕事に就いた中でも、帯広市長選の選対事務所でのアルバイトが一番の思い出。「選挙中は、色んな人と巡り合えて楽しかったですね。人生の財産です」平成元年には、サホロリゾートの従業員食堂で勤務することになり、新得へ。ここでも社交的な性格が役に立った。「今でもここで出会った方と長い付き合いをしています」と人との出会いに喜びを感じている。キヨスクの店頭立ち始めたのは平成14年。元々お客さんと接するのは好きで問題はなかったが、事務の経験がなく、お金の管理、仕入れ、数々の伝票や帳簿の整理などに最初はとまどつた。「やつと覚えてこれで完璧！なんて思つていたら、3年ほど前に今度は全てが機械化されたんです。それを覚えるのにまた苦労しましたね」。お客さんには常に笑顔で声をかける。「一度顔を見たら忘れないうし、私からの『行つてらっしゃい』の一言に、すごく喜んでくれる常連のお客さんもいるんですよ。『妻には言つてもらえない』

縄のチームを含め道内外から93チーム、10才から77歳まで377人の選手が世代を超えた熱い戦いを繰り広げました。そんな中、手に障がいのある方から、ミニバレーは自分のように障がいがあつても子どもから年配の方まで男女を問わず誰でも楽しめるスポーツであり、これからも普及活動に力を入れていきたいとお話がありました。意気込みに感心すると同時に、新得町発祥のフロアカーリングも誰でも楽しめるのは同じで、さらにアキレス腱を切る心配もないので、町をあげて普及させていきたいと改めて感じたところです。次に「第54回全道ろうあ者大会」が8月30日〜9月1日にかけて、町内はもとより道内各地からお手伝いの方を含め700名を超える方が参加して開催されました。そんな中で、皆さんが顔を向き合い、指で、体で、表情でコミュニケーションをとる姿を見て、その難しさを感じたと同時に、気持ち伝わってくるコミュニケーションの大切さを強く感じたところです。また、大会関係者の方から地元の特勝高原太鼓、フラダンスサークル、手話コーラスの会、新得小学校3年生が参加者の前で普段練習していた事を披露していただいた事、昼食に屈足そばの会の協力をいただいた事など、その他にも大変多くの町民の方から心温まる歓迎をしていただいたと、お礼の言葉をいただきました。両大会とも大変多くの町民の方の協力があつたからこそ盛り上がった大会になつたと強く感じたところです。



短歌

新得短歌会

ぬがされて着せられて今このわれ
逆だったなら出さるだらうか
大瀬戸拓代

何ごともなかりしごとく来る夏か
盆の花など吾は求むる
宮脇 和子

この晩夏近間草むら蝨
唯一鳴くをほつとして聞く
小関 白潮

天に向き咲く花の中おだまきの
うつむく様はわが瞳を誘う
高橋 幸子

人間はへそに繋がる母の愛
やさしくだものしおれた花跡
岡田御狸裸

亡き妻が選んで植えし島桜
主るなくとも元氣よく咲け
近久 農夫

家の中我の心中は家外の
花の咲くのと雀の群れなり
友定ミサエ

惜しげなく切りてくれたるカサブランカ
香り漂よふ夏の夜ながを
羽場タカ子

俳句

新得俳句同好会

敗戦日吾生き伸びて飯を食ふ
片桐 波月

終戦日平和を知らぬ友の墓
月井 愁峰

風鈴の吊られしままの捨て家屋
高橋 民女

初盆の遺影の娘微笑みて
西川 勝仙

甲子園汗と涙のドラマあり
八木 育子

孟蘭盆や花火賑わい四世代
斉藤 責告

猛暑言う体験出来ぬ北に住む
大崎かずお

戦災へ震災重ね盆供養
中島 土方

バックの写真：9月7日 しんとく秋祭り大なわとび大会にて元氣よく跳ぶ子どもたち